



JET プログラム 35 周年同窓会の開催 JET 経験者のつながりを実感

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所 所長補佐 藤本 修平 (和歌山県派遣)

JET 35 ALUMNI REUNION

5月20日から22日にかけて、JETプログラムの35周年を記念した「JET35 ALUMNI REUNION」がシアトルで開催されました。

このイベントは、アメリカのJETプログラム経験者の会（JETAA）の支部間のネットワーク強化および情報共有などを目的として2015年に設立されたUSJETAAが主催し、2017年に続いて2度目の開催です。イベントでは、様々な分野で活躍するJET経験者によるセッションや日本の祭りをイメージしたレセプションなどが行われ、世代の違う158名のJET経験者が交流を深めました。



林外務大臣からのビデオメッセージ

それぞれの経験を共有

イベントの内容は事前に参加者にアンケートを取ったうえで構成され、翻訳通訳者や、映像クリエイター、経営者など、様々な分野で活躍しているJETプログラム経験者などが登壇し、それぞれのJETの経験や日本との関わり、帰国後のキャリアを参加者と共有しました。



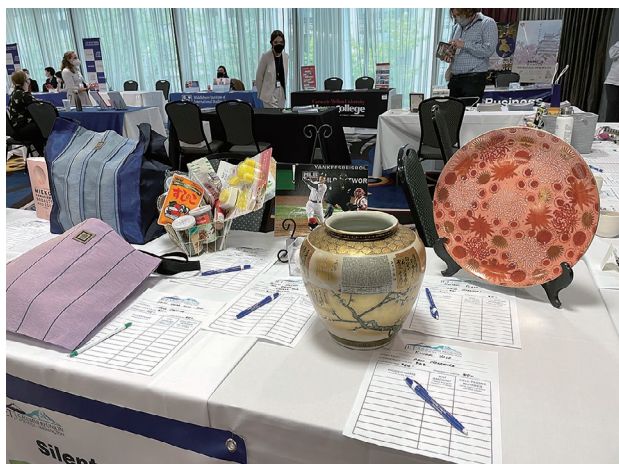
自身の経験について語る Davisson 氏（漫画の翻訳、執筆家）

食ビジネスをテーマにしたセッションでは、海外向け日本食ギフトボックス配送サービス「ココロケアパッケージ」を運営している Rowlatt 氏から、「質の高い日本食を広めることで、消費者にさらに日本を好きになってもらえるように心がけている。そのために、例えば調味料を配送する際には、料理別の使用量や使い方などを丁寧に説明するようにしている」という話がありました。講演者それぞれが日本での経験を活かして日米の架け橋として活躍し、国際交流や文化交流のかけがえのない人材であるということが再認識できる内容でした。



食ビジネスをテーマとしたセッションの様子

また、イベント期間中は、関係団体によるブース出展、キャリアカウンセリングを専門とするJET 経験者による1対1のキャリア相談や、参加者の提供によるチャリティーオークションも行われました。



チャリティーオークションの様子

春祭りレセプション

イベントの最終日には、春祭りレセプションが開催されました。参加者は、それぞれが持参した浴衣や法被、甚平などを着用して寿司などの日本食を楽しみ、さながら日本の祭りのような雰囲気を楽しんでいました。同じ地域に派遣されていたメンバーや友人同士で写真を撮ったり、当時を懐かしんだりする姿が会場のあちらこちらで見られました。また、参加者のJET プラグラム参加時期は1980年代から2020年にわたっており、旧交を温めるだけでなく、新しい人脈を築くとてもいい機会ともなりました。



春祭りレセプションでの集合写真

集まることで得られること

本イベントは、全米規模のJET 関係のイベントとしては、新型コロナウイルス感染症パンデミック後初めてのインパーソンでの開催でした。実際に参加してみて、オンラインでの開催時と比べて、参加者が発言しやすく、質疑応答などもより活発に行われていたように感じました。レセプションや食事の時間を含め、会場内では気軽に好きなタイミングで話しかけることができ、JET 経験者から個別に話を聞く貴重な機会となりました。昨今はオンラインのイベントが主流になってきていますが、人と人が交流するにあたって、実際に会って話すことの大切さを実感しました。

イベントに参加したJET 経験者の多くが、JET プログラムを通して日本で得た経験やJETAAの人脈やつながりを活かして活躍しており、JET プログラムは、日本の学生のための語学教育や国際交流に資するだけでなく、JET プログラム参加者の帰国後のキャリアなどにとって有意義なものであるということを再認識することができました。



久しぶりの再会を喜ぶ参加者